

外部評価の結果

事業所名 グループホーム 福寿万記の里

日付 平成18年3月31日
 特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年
 評価調査員 在宅介護経験9年
 評価調査員 老人保健施設相談員、介護支援専門員
 厚生労働省認知症介護指導員

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

福寿(幸福で長寿なこと)と万(万記と言う汎用後はないが、万のつく言葉はよはずの目出た意味が多い一代表者の奥様に因んだ言葉と聞く)は、高齢者にとって、縁起が良い言葉である。幸せを呼んでくれるグループであって欲しいと祈りたい。昨年に続いて外部評価をしたが、当初より3ユニットで運営しており、1年目は人材からしても苦労したけれど、ようやく管理者も整い、3つのユニット単位でサービスの提供ができるようになった。

代表者は「先ず内部の問題をしっかりと解決して、色々な課題に挑戦していきたい。地域など外部の事はそれから」と言う。

このグループホームのケアに対する全体の考えは『目配り、気配り、心配り』としているが、日常の運営は各ユニットの管理者の独自性に委ねている。従って管理者や職員と利用者との人間性によって空気は大変違っている。人間が生活している場なので当然のことであろう。

3階建の建物に3つのユニットが立体的に配置されているので、多少の利用者の行き交いはあるけれど、日頃は独立している。1階に大きなホールがあり、ここで外部からの訪問も含めて交流できるようになっている。

このホールを活用して、利用者の趣味や能力を活かして活気ある楽しい生活を支援していけるよう今後共努力してもらいたい。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

3つのユニットの抱えている問題点やケアに対する考え方等は、グループホーム全体のこととして、代表者と管理者、計画作成担当者等とよく協議してもらい、より良いケアの質の向上に努めて欲しい。

3つのユニットの利用者が、このホールを活用して日頃から交流していけるような時間帯をもっと増やしてみてもどうか。

利用者の生活ぶりを家族に知らせ、家族からも感想や意見が届くようなメッセージ交換が出来る手段を考えて、家族との協力関係をもっと密にするすることを考えて欲しい。その一つが定期的に発信する“たより”等である。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	職員が、利用者一人ひとりの希望や願いを大切に、能力に応じた仕事をしてもらったり、趣味を生かした作品づくりを支援して、利用者のペースに合わせた生活をしている。職員は一方的に何かをすることを強要するのではなく、利用者の寄り添い、声かけをしながら、利用者の作った作品が更に輝くような雰囲気をつくり、皆が参加するように後押ししている。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	1～3階のユニットは街中のように1丁目、2丁目、3丁目になっている。各居室は、丁目 番地 様の表札がついていて、街の中の我が家を感じさせてくれる。		
	リビングルームは広いスペースがあり、畳敷きのくつろぎの間があり、和洋両様式を味わえる。食堂の一角にオープンキッチンがあり、調理の仕事しながら職員は、リビングルームや利用者の動きをよく見渡せる。		
	各階にベランダがあり、洗濯干場になったり、眺望の場となっている。プランターを置いて、緑に接する事も出来る。外には農園もあり、各ユニットで使えるようになっている。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	利用者の過去の経験や特技を知りながら、一人ひとりの出来る事を自分でできるように支援しようと意識を持っている職員も素晴らしい。		
	代表者自ら「食」にこだわりを持っており、利用者に美味しい食事をしてもらおうと、食材や調理法そして食器までも充実させている。		
	このホームは夫妻の入居があり、夫妻仲良くいたわり合って暮らしている。反対に病気のせいで夫妻一緒に暮らせない人もいて、ホームの中でも社会の縮図を見るよう。病気とは人生を狂わせる凶器でもある。特に認知症の原因になる病気によっては、ケアも狂い、そこに住む他の人への影響も与える。それにめげず職員は努力している姿を見た。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	認知症ケアは、利用者を穏やかにゆっくりと生活させてあげるための支援もあれば、身体の一部が褥創になったり、怪我をしたり、嚥下障害になったりして、職員が何日間も苦戦しながら回復させる看護と介護両面からの支援もある。困難を乗り越えた時には、何物にも勝って強い一体感が湧いてくる。このような体験はお互いの信頼感や絆を増し、今後どのような問題が発生しても、それぞれの職員の特技や性格を生かし、解決の糸口を見つける事が出来る。		
	こういう事の一つ一つが、ケアやサービスの向上につながっていくだろう。そして信頼されるグループホームになると信じる。		